

## 社会福祉士受験対策 2021/9/19

### 佐賀県社会福祉士会 武富勝司

#### 【1】社会福祉士試験

社会福祉士 回答割合 相談援助 %

	25回	26回	27回	28回	29回	30回	31回	32回	33回
1	4	18.5	20	17	17	16	20	20	10
2	40	22	25	25	17	20	20	13	17
3	27	22	20	20	18	24	20	20	23
4	14	16	20	20	26	24	20	25	23
5	14	20	15	17	21	16	20	20	26

正解の割合

2→3→4→5→1

※直接、マークシートに記入する。一問あたり1分半未満。時間がないです。

※専門用語を問う問題と支援を問う問題

※スマホ等、インターネットですぐ調べることができる環境で勉強する。

#### 【2】過去の合格ライン

第33回 令和2年度(2021年2月7日)	93点 / 150点
第32回 令和元年度(2020年2月2日)	88点 / 150点
第31回 平成30年度(2019年2月3日)	89点 / 150点
第30回 平成29年度(2018年2月4日)	99点 / 150点
第29回 平成28年度(2017年1月29日)	86点 / 150点

#### 【3】社会福祉士国家試験におけるキーワード

不正解キーワード

- ① 任せる②あきらめる③みんなも悩んでいる④頑張る⑤大丈夫ですよ。⑥励ます  
⑦ そっとしておく⑧施設入所を勧める⑨指示する⑩説得する⑪指導する。⑫アドバイス

正解キーワード

- ① 連携、協働(協力→不正解の事例有) ②訪問(アウトリーチ) ③社会資源の紹介④支援する。④調整する。

## ストレングスモデル

個人の持つストレングス（願望・夢・希望・能力・技術・自信・自己効力感など）間の相互作用を高める。そして、個人の持つストレングスをより強固にする。環境の持つストレングス（資源・サービス・人・つながり・参加する機会など）間の相互作用を高める。そして、環境の持つストレングスをより強固にする。そして、個人のストレングスと環境のストレングスを生活の場で相互作用させあいながら、その相互作用によって、個人・環境双方のストレングスを高め、生活する本人の力と、本人が生活していく場（地域）が持つ力、両方を高め（＝エンパワメントし）本人の生き方の質を高める {ストレングス理論}

### ストレングスモデルの原則

原則1：人々は、リカバリーし、回復し、そして人生を変えることができる。

原則2：焦点は個人の欠陥よりも個人の強さである。

原則3：地域を資源のオアシスとしてとらえる。→過去に出題あり。

原則4：利用者は援助過程の管理者である。

原則5：ケースマネジャーと利用者の関係が根本であり本質である。

原則6：私たちの仕事の最も重要な舞台は地域である。

**焦点を当てるのは、欠点でなく強みつまりストレングス(プラス思考)**

#### 第26回 98 医療ソーシャルワーカーの問題

パートナーとの性交渉でHIV感染、友人の勧めで受診。

① この病気になって大変ですね。②親身になってくれる友人がいる。

③ 早く両親に伝えてください。④HIVとエイズは違います。

⑤ 受診できたのは大きな一歩ですね。

### 3 システム理論

システムとは、無秩序とか混沌とは、反対の意味で、物事、現象、出来事などに秩序があるということ。ソーシャルワークにおけるシステムとは、テキストに「諸要素のまとまりという意味をもち、その個々の要素は全体と無関係のものではなく相互に作用し合って全体を構成している。」と書いてあります。

国家試験で出題された内容を加味すると下記のようになると思います。

システムは「ルールがある塊(かたまり)」です。そしてその塊は、変化することを嫌います。(恒常性 ホメオスタシス)しかしその塊は単独では存在することができません。よってその周りの環境に影響を受けます。(たとえばサイバネティクス 他の干渉、フィードバックを受け自己を変化させようとする仕組み)周りの複数の要素に有機的に関り、初めからどうなるか(最終状態)はわかりません。

### 6 エントロピー

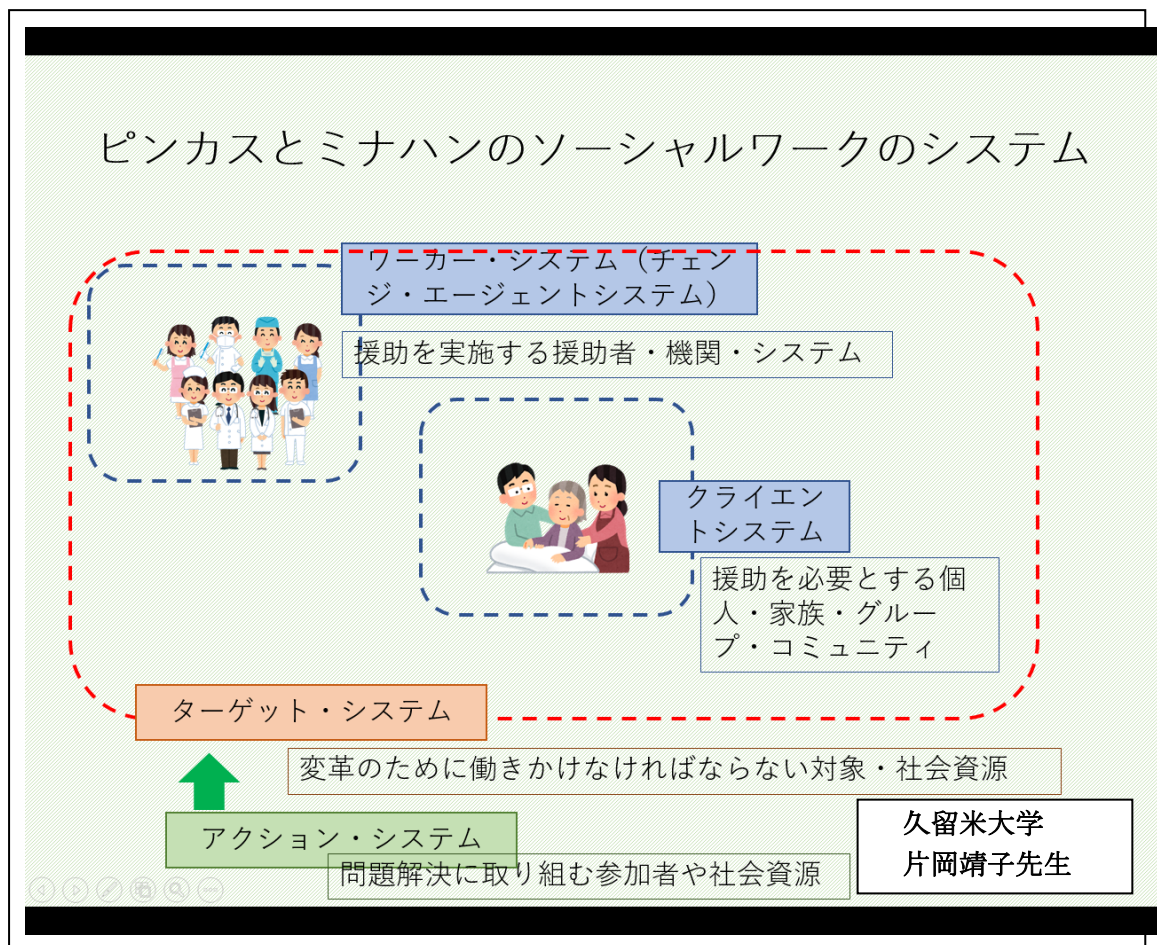
集合形態→同じ状態のものは、長く存在。

違う状態のものは、長く存在できない。→例えば、お湯の中の氷とか。

定常状態→変わらないもの

インプット(入口)アウトプット(出口)

## 12 4つのシステム



- 17 パターナリズム→父権主義であり批判されてきた。  
課題を解決するのはクライアント  
クライアントの人生の主人公はクライアント  
過去問題の事例→指導する等→つまり間違いです。
- 24 理論 状況を理解するための理論→アセスメント  
援助を行う理論→支援方法。
- 25、26 ボランタラー  
インボランタラー→信頼関係、傾聴が重要。アウトリーチに通じる。
- 27、28 医学モデル、生活モデル  
医学モデルは、原因を探し、それを解決する。  
生活モデルは、人と環境の相互作用から生まれる。コーピング(ストレス対応力)。

【問題】訪問看護を利用中の患者。褥瘡形成あり。どうして褥瘡ができたか？

医学モデル→同一部位への圧迫。栄養状態等。

生活モデル→本人の生きる気力の低下。介護者の疲労、知識不足、サービス利用の課題等。

64～73 インテーク 面接時間の設定。秘密を守る。個別化によって情報収集。主訴の把握。  
スクリーニング(対応ができるか否か。)

33回 102 機関の説明。落ち着いて話ができる(66のカタルシスに通じる)

70 アイビイ→159 面接技術に通じる。

74～78 アセスメント

状況を理解する。システム理論、ストレングスの評価等。

課題(ニーズ)や希望を明らかにする。つまり言語化する。

79～83 プランニング 問題解決への意欲を持たせる。→ストレングス

84～102 支援の実施。100 アンダーソン 波長合わせと契約。

103～110 経過観察モニタリング

111～131 支援の終結と効果測定

132～138 アフターケア

過去問題から出題傾向

インテーク 11題 アセスメント 4題 プランニング 4題 支援の実施 1題

モニタリング 4題 支援の終結 6題 アフターケア 4題

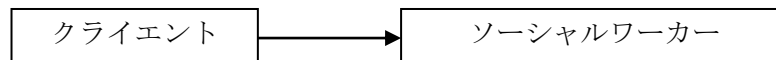
140 人と環境の交互作用(相互作用という場合もある。)

143 152 154 カデューシン

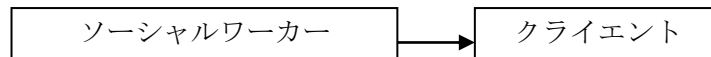
→スーパービジョンインソーシャルワーク 福山和女監修の文献。最近出版。

144 信頼関係→ラポール

149 転移 クライアントが援助者に対して、無意識的に個人的要求の充足を求める。  
ソーシャルワーカーを父親、母親と思う。



逆転移 ソーシャルワーカーがクライアントに対して、無意識的に個人的要求の充足を求める。避けた方がいい。



### 159 面接技術 渡辺律子 (日本女子大学)

- ① 場面構成 社交的会話 ここまで来られるのにどの位時間がかかりましたか
- ② 受けとめ クライアントの話を受けていること。相づちなど(沈黙を含む)  
最低限の 相手の話の促しを目的とする。  
励まし
- ③ 明確化 クライアントが話したことを援助者が正しく受け取っているか。
- ④ 繰り返し 否定、肯定、解釈をいっさい入れないでクライアントが話したことをそのまま述べること
- ⑤ 言い換え クライアントが伝えたことの内容を本来の意味を失わずに、内容は同様に別の表現で伝える。
- ⑥ 感情反射 クライアントが明らかにあるいは暗に表現した内容を相手に伝える。  
「○○○というお気持ちだったんですね。」→情緒面「フィード・バック」
- ⑦ 要約 中核と思われることをまとめて話す。
- ⑧ 質問 開かれた質問、閉じられた質問

- ⑨ 支持 明確な根拠がある場合にクライアントを認める。  
「がんばって介護されてましたね。」
- ⑩ 情報提供 役立つ情報提供
- ⑪ 提案 こうしたらいい
- ⑫ 解釈 クライアントに述べたことの意味を援助者側の解釈を加え説明する。
- ⑬ 焦点化 みえていない点に気づく、新たな解釈
- ⑭ 分断化された情報の総合 テキストなし文献より
- ⑮ 仮説的状况に対する質問→「もし××であったら」テキストなし文献より

(1)中間的発言①

(2)傾聴反応 ②～⑦

(3)積極的な言語介入⑧～⑮



交互、例えばフィードバック、焦点化等

## 第 22 回 104

問題→面接場面の技法 直視、要約、感情の反映(反射)、助言・提案、自己開示

## 第 23 回 103

語句の説明 繰り返し、沈黙、言い換え、相づち、閉じられた質問

## 第 24 回 101

虐待のケース 閉ざされた質問の意味

## 第 24 回 102

アルコール依存のケース 感情反射の意味

## 第 25 回 110

不登校のケース 実際の場面上記に当てはめ正解か否かを問う。

開かれた質問を用いて不登校の理由を詳細に尋ねる

## 第 26 回 107

母子相談員ケース、施設で対処したい。

## 第 26 回 112

ケアマネジャー施設入所の相談

## 第 27 回 107

応対技法 (アイメッセージ)

1. アイメッセージ;相手の心に届く話し方「こうしてもらえると助かります。」

## 第 29 回 107

アンビバレント→心理用語 両面感情 表現の観察。

## 第 31 回

アイビー「基本的かかわり技法」開かれた質問、閉ざされた質問、励まし、要約、言い換え、感情の反映、意味の反映。アイビーは 22 回に出題されている。

内容が面接技術に似ている。

## 第 32 回 閉じられた質問

第 33 回 明確化、閉じられた質問、支持、開かれた質問、要約。

# アプローチについて

## 心理社会的アプローチ

- ・源はリンチモンドにある。起源は、リッチモンドまで遡る。
  - ・クライアントのパーソナリティの再構築を目的とする。
  - ・フロイトの精神分析理論の影響を受けた。
  - ・ハミントン、トール等の診断主義アプローチとして発達。
  - ・ホリスは、「ケースワーク社会心理療法」で「状況の中にある人」という概念を提示。
  - ・転移も、逆転移はこのアプローチにおいて重要。
  - ・トールは、「コモン・ヒューマン・ニーズ」の中で①食、住、健康 ②情緒的、知的成長の機会③他者との関係④精神的ニーズを上げている。
  - ・個人の人格が社会環境によって形成されていく過程まで分析しない
  - ・ストレングスは、心理社会的アプローチから見いだせない
  - ・支援を必要とする人、すべてに適応可能なアプローチとして位置付けられている。
- その中でも家族関係から生じる課題、精神医学や医療的課題に対して適応可能と考えられている。
- ・人、状況、両者の相互作用から成り立っている。
  - ・「状況の中の人間」を中心焦点にすえ、人の行動や成長・発達に着目しクライアントの社会的機能の維持・向上を支援目標としている。

## 機能的アプローチ

- ・利用者のニーズを機関の機能との関係で明確化し、その機能を個別化して提供する。
- ・クライアントの社会的機能の向上を目指す。利用者の成長を目指す。
- ・利用者を「潜在的可能性」を持つものとしてとらえる。
- ・診断主義の批判として誕生した
- ・「人は意志を持っている」ランクの自我心理学を取り入れている。
- ・ロビンソンが提唱者、タフトと共に意志心理学を基盤理論としている。
- ・スモーリーは、①効果的な診断の活用②時間の段階の意図的活用③機関の機能と専門職の役割機能の活用④構造の意識的活用⑤関係を用いることの重要性を機能的アプローチの5原則としている。

## 問題解決アプローチ

- ・パールマンによって体系化された。
- ・人間を「潜在的問題解決者」、ソーシャルワークを「好ましくない状態から好ましい状態への移行を含む問題解決過程」と捉える。
- ・人々が社会的課題の遂行時に会う問題に効率的に対処できるように援助する。
- ・ワーカビリティとは「クライアントが支援を自分にとって有効なものとするかどうか応答能力、支援活用能力」と解釈される。
- ・信頼関係を形成し問題を部分化し、側面的な援助者。

## 課題中心アプローチ

- ・クライアント自身が問題を認識できるようにする。
- ・目標を一緒に考える。
- ・短期処遇である。
- ・利用者自身による段階的な問題解決行動が強調され介入構造を活用する。

- ・問題が解決された状態への導きを通じての社会的機能の改善を目指す
- ・パウルマンの影響を受け、リード、エプスタインによって開発された。
- ・心理社会的アプローチ、問題解決アプローチ、行動変容アプローチなどの影響を受け発達した。→折衷アプローチ
- ・上記のように折衷アプローチである。他のアプローチから有効性が示されている方法を選択する。
- ・問題の捉え方①「いま」「ここ」の重視。②問題解決へ向けての出発点とみる。
- ・ターゲットの選択①クライアントが認める問題であること②クライアントの自らの努力で解決できる可能性のある問題であること。③具体的な問題であること。
- ・クライアントとともに課題を設定、遂行する援助方法である。
- ・ターゲットとなる問題が解決された状態をクライアントが言語化し、それを処遇目標として定める。
- ・面接の回数や頻度などの確認、合意し、問題解決への動機づけを高めていく。
- ・過去にさかのぼって原因を探らない
- ・1970年代に提唱された。
- ・アセスメントは、行動変容アプローチの影響を受けている。

#### 危機的介入アプローチ

- ・急性の感情的な混乱状態にある利用者の対処能力の強化、社会的機能の回復に焦点を当てる。
- ・短期処遇のアプローチ
- ・フロイトの精神分析理論、エリクソンの自我心理学、学習理論、心理社会的発達理論(乳児期、(生誕から18か月から成年後期65歳～死までの8段階に分け、人と環境との間に生じる緊張を心理社会的危機とした。)を基礎としロスの死の受容過程(①否定、②怒り、③取引き、④抑うつ、⑤受容)、リンデマンの急性悲観反応研究(1942年ナイトクラブ火災(死者493人)、キャプランの地域予防精神医学研究(危機的状況から回復する期間を4～6週とした。)等を元に体系化された。
- ・1950年に予防精神医学として発展してきた。
- ・急性の危機状態にあるクライアントのニーズ充足や懸念の解消に取り組み新しいパターンを教示しつつ対処能力を強化し、社会機能を回復することが支援の焦点になる。
- ・環境を元に戻す介入を重視していない
- ・医学や心理学の分野から導入された。
- ・対象者を危機的状況、感情的混乱状態にある人としている。
- ・本人の対処能力を高め、社会的機能の回復に焦点を当てた対応を行う。
- ・地域社会に行うのではなく、本人もしくはその家族に対して行う。
- ・適切な時期に介入し、社会的機能の回復を図ることが支援の焦点となる。
- ・キャプランは危機に陥る状況をあらかじめ捉えることで早期介入の重要性を強調した。

#### 行動変容アプローチ

- ・スキナーの学習理論の影響を受けている。
- ・バンデューラの社会的学習理論を取り入れた。
- ・社会生活技能訓練SSTの技法を用いる。
- ・問題を観察可能で具体的な行動として明確化する。
- ・パブロフの古典的条件付け、オペラント条件づけ、レスポンス条件付け、バンディーラの社会学習理論からも影響を受けた。これらのことが折衷的に取り入れられている。

- ・精神分析の強い影響を受けたソーシャルワークへの批判から生まれた。
- ・人間の行動の刺激と反応との相関性を見出し、強化を受けて適応行動の頻度を増し、不適応行動を消去する。
- ・クライアントの社会的機能を改善、向上させるように望ましい行動を増加させ、望ましくない行動を減少させる。
- ・役割理論は導入されていない。
- ・強化による行動変容によって、適応行動を増やす。
- ・観察可能な行動として問題を捉え、行動に影響する諸条件を操作することにより行動を変容させる。

### エンパワーメントアプローチ

・ソロモン、人は本来備えているパワー(社会、経済、政治的能力)が社会的マイノリティ(少数派)であることなどを理由に抑圧されパワーレスの状態に陥ることがある。この状態から回復を図ることであり、利用者自らが問題に対処していくこと、抑圧状況を作り出している構造要因を変革することに焦点を当てる。

- ・1976年「黒人へのエンパワーメント抑圧された地域社会におけるソーシャルワーク」
- ・個人と敵対的な社会環境との相互関係によって人は、無力な状態に陥ることが多いとしている。

・アメリカにおいて人種差別や貧富の差が生じた時代に誕生

・グティエレスは、黒人の女性のエンパワーメント研究、小集団活動は、女性のエンパワーメントや状況の変化に理想的な形態である。

・ライフモデルから影響を受け、社会相互作用の過程で生じる力に着目し差別と抑圧という力動を強調する。

・ディボイスとミレイは、実践内容として①パートナーシップの形成②挑戦する状況の組織化③方向性の明確化④ストレングスの特定⑤諸資源のアセスメント⑥解決への枠組み作成⑦諸資源の活性化、動員⑧連携の創造⑨機会の拡大⑩成功の認識⑪成果の統合と述べている。

・アグレッシブケースワーク(機関の援助が必要である問題を抱えているにもかかわらず、援助を求めない対象者に積極的に働きかける活動)

・「ストレングスは、エンパワーメントの燃料である。」コウガーの言葉

・フレーレ→貧困状態にある農民への識字教育。対話を通じて「意識化」関係性による自己の開放、相互の開放を図る可能性を唱えた。

1.本来の内在于る力(≒ストレングス)を失っている人が、持っているはずの力をともに取り戻す過程。

2.自ら問題を解決する能力を阻害されている状態から、再び自らの問題解決能力を取り戻していくこと、また引き出していくこと、それを支援すること。

3.福祉サービスの利用者、消費者がより力を自覚し、自分たちの生活に影響を及ぼす事柄や問題を自分自身でコントロールできるようにすること。

専門職が持つエンパワメントの視点

- 対象者を保護すべき者ではなく権利の主体として見る
- 対象者の能力を信用する
- 平等なパートナーという関係を保つ
- 対象集団に特有な文化を尊重する

・クライアントが置かれている否定的な抑圧状況を認識し、潜在能力の気づきとその能



力を高め、抱えている問題・課題に対処していくことで抑圧状況をつくり出している構造的な要因を変革していく。

・17世紀に法律用語としてみられた。現在は、学際的用語として用いられた。

### **ナラティブアプローチ**

伝統的な科学主義、実証主義に対する批判として誕生した。

現実には、人間関係や社会の産物であり、それを人々は言語として共有しているとする認識論の立場に立つ。

社会構成主義を基盤としている。

ナラティブとはストーリーや物語という意味を持つ言葉。←ストレングスモデル

物語→出来事の羅列ではなく、筋書のあるストーリー

語り→個人の経験にもとづいた発言

声→大きな声に押しつぶされる小さな声

クライアントの現実として、存在し、支配している物語をソーシャルワーカーとして協働して見出していく作業。→原因にこだわらない。

基本的な立場は、社会から見たら「非常識」なものであり、「常識」にとらわれて苦しむ人々を支援する方法。(男らしい、女らしいとか)

J.S.ブルーナーは心理学の研究において、人々が経験からに見出す「意味」の重要性を提起しました。そして「意味」をつくりだす源として「物語」を位置づけました。

問題の外在化 「スニーキー・ブーの事例」 便で作品を作る。

その問題に「スニーキー・ブー」と名前をつけ、そのことが本人と家族にどのような影響を及ぼしているか質問し明らかにしていった。

- ・ヒューマンシステムを言語システムとして捉える。
- ・個人と環境の継続的な相互作用により無力化が起こる。
- ・ライフストーリーの書き換えを目指した技法を用いる。
- ・問題が山積みしているドミナントストーリーからオルタナティブストーリー（もう一つの物語）へ書き換える作業を行なう。例外を見つける。

### **解決志向アプローチ**

・原因を探ることと問題解決は別である。

・利用者が持っている具体的な解決イメージを重視し問題が解決した状態を短期間で実現することに焦点を当てる。

- ・解決イメージに焦点をあてる
- ・ブリーフセラピー(短期療法)の流れをくむ心理臨床におけるアプローチである。
- ・問題解決のために変化を志向する。
- ・病理でなく肯定面に焦点をあてる。
- ・現在および未来を志向する。
- ・問題の解決を原因の除去に求めるのではなく、クライアントが抱えている解決のイメージをSWとの協働作業(面接過程)のなかでつくり上げる。
- ・ミラクルクエスチョンとは、クライアントの考えを飛躍させて問題解決後の生活がどのように変化しているかという想像をうながす。
- ・スケーリングクエスチョンとは、クライアントの観察、印象、予測などによりこれまでの経験内容や今後の見通しなどについて数値化し評価する。
- ・コーピング・クエスチョンとは、クライアントがこれまで苦境に立たされた時にどのような方法で切り抜けてきたかを確認する。問題を過去に切り抜けてきた対処方法に目

を向ける。

- ・エクセプション・クエスチョンとは、クライアントが抱えている問題がおこらなかったことやそれほど深刻にならなかったことがあったか、そのときの状況を気付かせる質問法である。

- ・サバイバル・クエスチョンとは、コーピング・クエスチョンの中でも非常に苦しい時期が長く続いていた際にどのような方法で乗り越えてきたか確認する質問法である。共感と賞賛を与える働きをする。

- ・問題の原因の追求よりクライアントのリソース(能力、強さ、可能性等)を活用することを重視する。

- ・クライアントの思考が問題が解決された後のイメージに導いていく。

- ・対話ではなく、クライアントから教わる無知の姿勢で関わりを持つ。

- ・短期療法の流れをくむ

### **実在主義アプローチ**

- ・利用者が他者とのつながりを形成し、疎外状態から解放されることに焦点を当てる。

- ・実在主義思想に理論的基盤がある。

- ・クライアントが自らの存在意味を把握し、自己を安定させることで疎外からの解放を目指す。

- ・合理主義や実証主義による客観的な人間理解を否定し、自己の存在に関心を持つ主体的な存在としての人間を強調する。

- ・自らの存在意味を理解できず、不安定な状態とされる疎外を感じているクライアントが対象。

- ・自分の力だけで自己を安定させようと試みている状態から抜け出し、他者とのつながりが形成できるように支援する。

### **フェミニストアプローチ**

- ・新興アプローチである。

- ・女性にとって社会的な現実を顕在化させ、問題を再定義し、個人のエンパワメントと社会的抑圧の根絶を意図した双方の支援が焦点となる。

### **ユニタリーアプローチ**

- ・戦略、ターゲット、段階を3つの次元とする。

### **バイオサイコソーシャルアプローチ(BPS)**

ジョージ・エンゲル

「バイオサイコソーシャル (BPS) モデル／生物・心理・社会モデル」。その根幹であるシステム理論である。

バイオ・サイコ・ソーシャル・アプローチは、医師、カウンセラー (セラピスト)、ソーシャルワーカーらの連携によって、クライアントをバイオ (身体)・サイコ (心理)・ソーシャル (社会) から包括的に支援するアプローチ。